王頌氏のコメントに対する回答

金　　天　鶴
（韓国 金剛大学校）

まず私の発表文を詳細に読んでいただき、多くの示唆を与えていただいたことに対して、王頌教授に感謝申し上げます。

質問に対して簡単にお答え致します。

第一に、「「三尽」ついて説く時、『論』で説くものとは重点が異なる」と述べておられますが、『義疏』でも『論』の趣旨を理解した後に「三障」について論じており、『義疏』の前後を読んで判断する時、『論』の趣旨を充分に理解しているものと考えられます。

第二に、「尽」の意味について、「究竟、究極」よりは「克服、窮尽、超越」などの意味であるとおっしゃっておられます。確かに「二乗不同尽」の例ではそのように見ることができると思います。ですが、他の二つの「尽」は、『論』の「九入」で言及されるものと同じ意味と考えることができるため、「究竟、究極」がより相応しいと思います。従って、この解釈は統一性を欠いており、今後の検討が必要だと思います。

第三に、『義疏』が唐代に至り、すでにその影響力を失っている理由については二つのことが考えられます。第一に、慧遠の影響力のために引用されなかった可能性と、第二に、慧遠以後に文献が逸失した可能性です。ただ、『探玄記』で引用する古徳の中には、法上を指している可能性がある文があるため、慧遠の影響力による可能性のほうを考えてみたいと思います。

最後に、法上以後の華厳家における「三種尽」に対する理解については、今後補充しながら、法上の趣旨を把握するようにいたします。ありがとうございました。

（翻訳担当：佐藤　厚）